



ひこさん おにすぎ
写真 S-023 英彦山の鬼杉

見事な一本杉で、この地方の親杉。主幹には大枝の痕跡が多数残り、以前は樹勢のよい見事な樹形をしていた事が偲ばれる。アプローチに時間がかかるが、巨大な岩壁に囲まれた幽玄の地に立つロケーションのよさは格別で、必見の大杉である。



むしかわ

写真 S-024 虫川の大杉

遠目に一本杉だが、上部で大枝や幹が入り乱れるように伸び、お互いに連理する等、荒々しい樹形をしている。大枝の痕跡(上写真)が残っているのは、約120年前の大雪で折れた跡という。推定樹齢は1,000年で、この地の植林の親杉であった可能性が考えられる。そして、長い年月、先端を破損しながら、それでも新しい幹を伸ばしていった生命力溢れる姿が読み取れる貴重な名木である。



ももほら ぼたんすぎ
 ◀写真 S-025 桃原の牡丹杉

桃源郷とでも表現したいような見事な展望を持つ桃原集落にある。まるでボタンの花が咲いているような樹形に驚く。根元で側幹が分岐する。

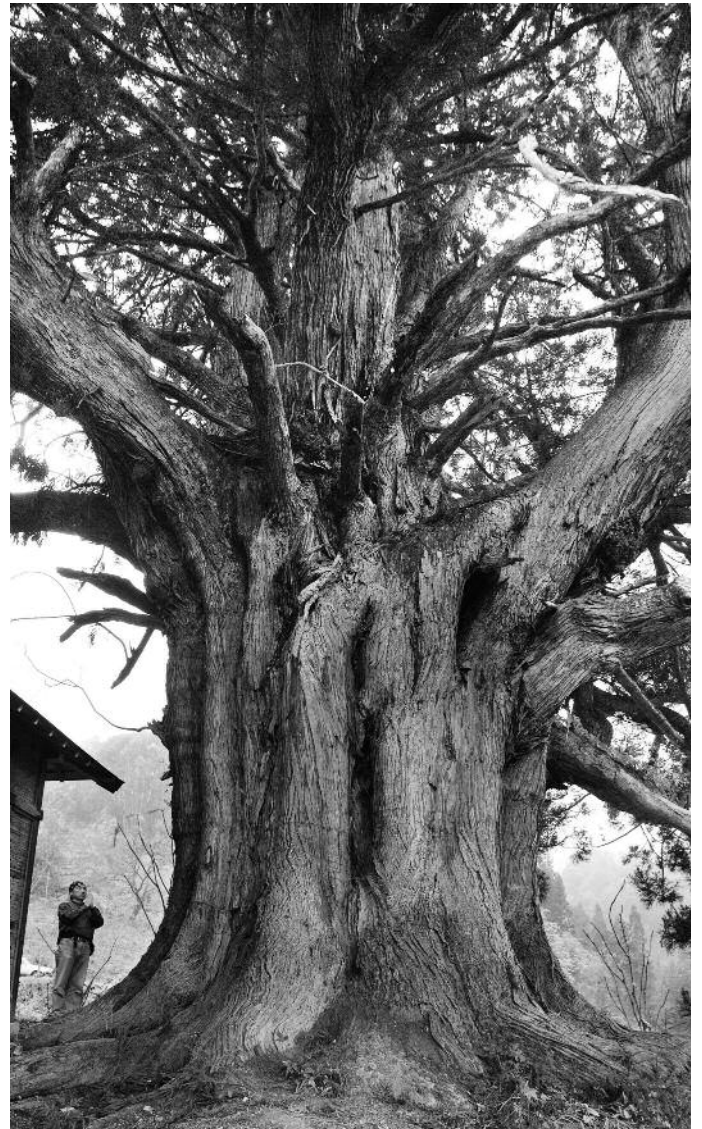
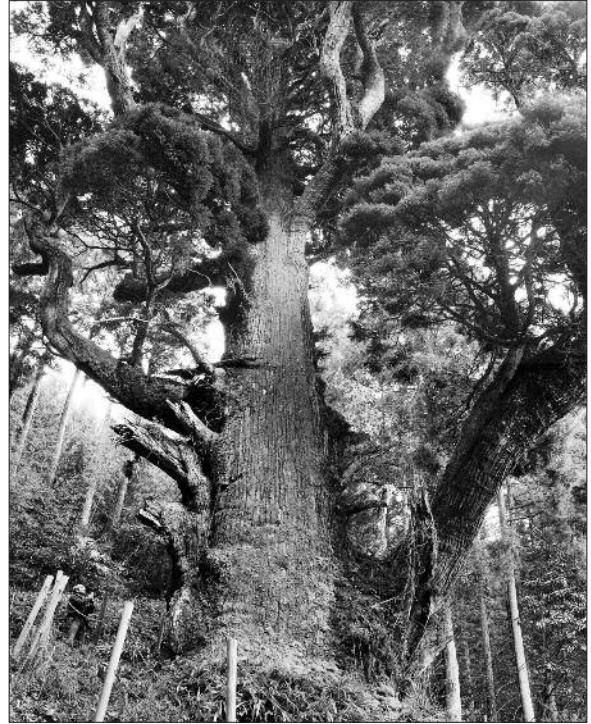
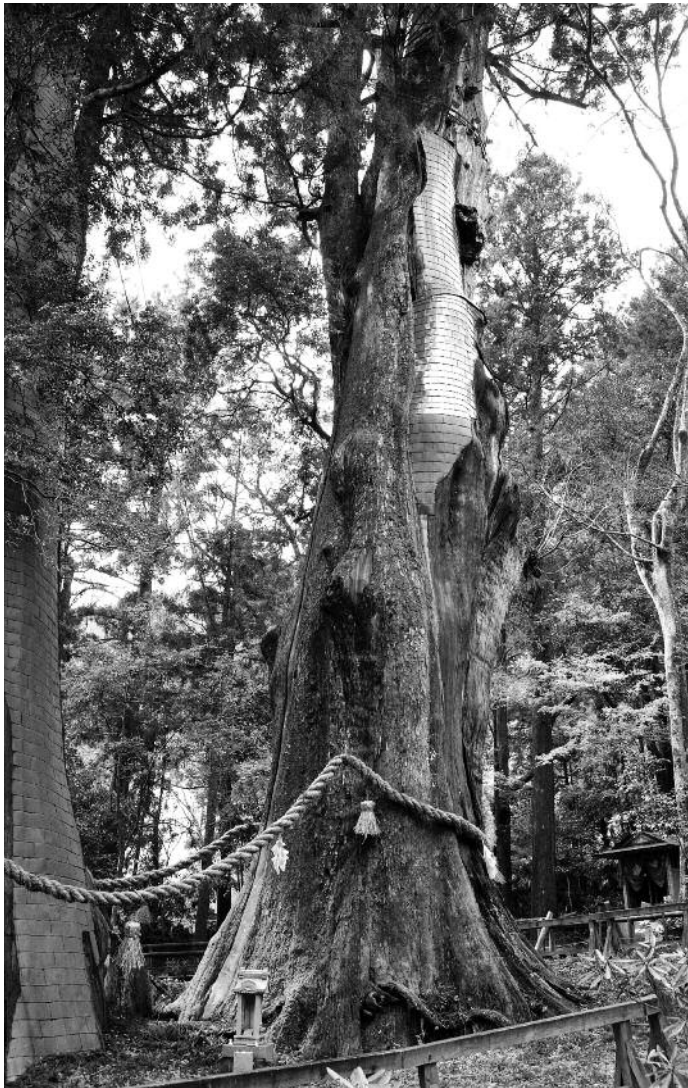


写真 S-026▶▶

まつぼ おおすぎ
 松保の大杉

アクセスが困難な辺鄙な土地にあり、たった一軒だけが残った集落の、水田に囲まれた高台に立つ。お椀を伏せたようなこんもりとした樹形は、石川県の御仏供杉を連想させる。地上数mで多数に分岐する大杉。天然杉の古株更新の樹形に似るが、何らかの原因で主幹が破損し、分岐幹が多数伸びて、巨大化した樹形とも見える。今後の調査を待ちたい。社は、山の神と稲荷社が祀られる。





◀写真 S-027 杉の大杉(北株)

日本一の育てられた杉である「南株」が大き過ぎて、目立たない存在であるが、幹周 10.6m もある。破損が目立ち衰弱ぎみではあるが、A 評価して問題ない大杉である。ちなみに、南北両株は二本並立である。地元では根元 2 分岐とするが、無理がある。単幹樹と天然杉の分岐幹樹を並立して植えたのは、雌雄と見立て、子孫繁栄の神として崇めた土俗信仰が考えられる。

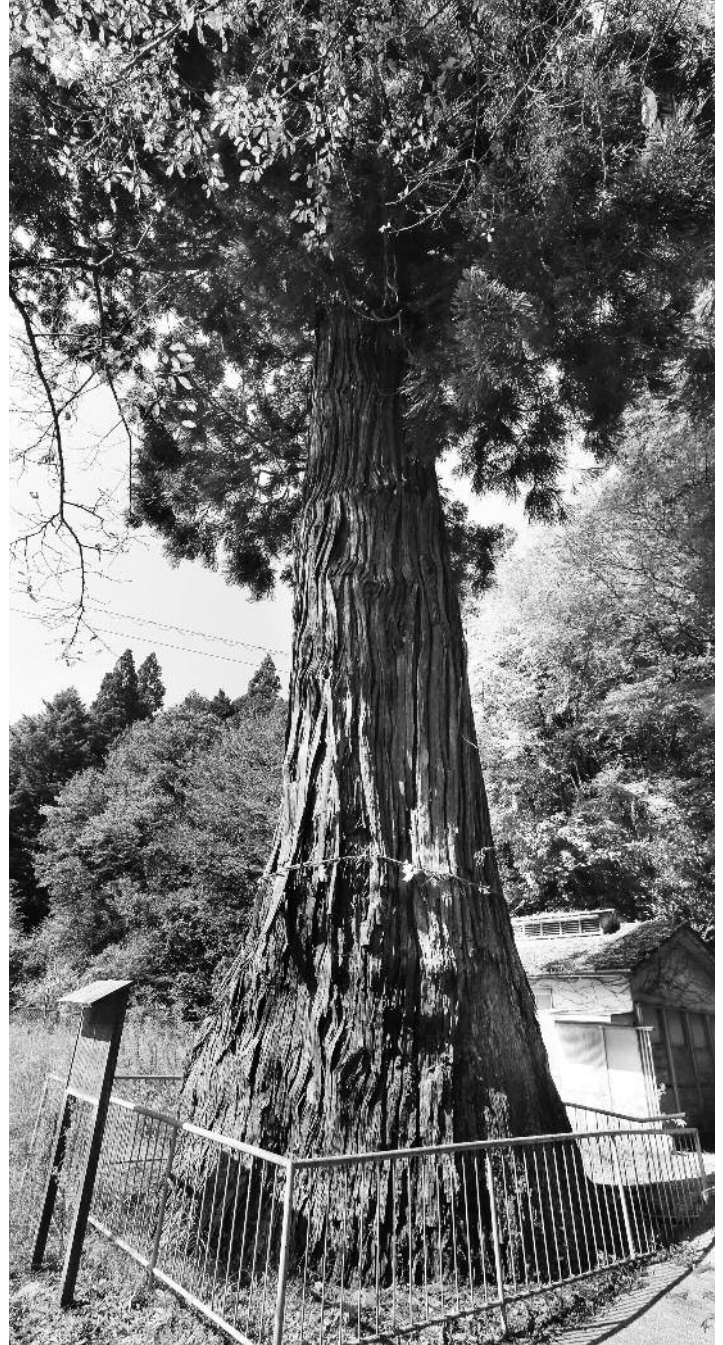


写真 S-028 すぎおうじんじや 杉王神社の大杉

これまで幹周 9.28m とされていたが、10m を越す大杉である事が判明、A ランク入りした。すっきりと立つ見事な一本杉である。

写真 S-029 ちゆうしゃ さんぼんずぎ 中社の三本杉(最大株)

神社入口周辺に、三角形の各頂点位置に 3 本の大杉が立つ。その内最大株。見事な一本杉で、堂々とした存在感がある。

おおやま
写真 S-030 大山の大杉

大山白山神社は、標高 860m 程の山中にある神社で、急な石段の参道途中の急斜面に立つ立派な一本杉。

標高からして、植林苗生産創世記に、親杉の役割を果たした重要な歴史遺産である。



写真 S-031
たまおきじんじゃ
玉置神社の大杉

玉置山の標高千 m 近い山中に神社があり、急斜面に立つ。この大杉も又、杉苗生産創世記に、神代杉と共に親杉としての役割を果たしたと考えられる、貴重な文化遺産である。

周辺には、このスギの子孫と思われる見事な一本杉が林立している。



おおたま
写真 S-032 大玉スギ

飛龍八幡宮の御神木。遠くから見ると樹形が玉のように見えたと言う事から命名された。現在は枝葉が少なくなっている。だが見事な一本杉である。

しょうじ
写真 S-034 精進の大杉

諏訪神社境内の南側に大小二本の大杉があり、どちらもご神木。



写真 S-033

あらかわ じじすぎ
安良川の爺杉

安良川八幡宮の美しい本殿の裏に立つ見事な一本杉。



写真 S-035 ^{てんじん} 天神の大杉

上天満宮本殿前に立つ見事な一本杉。
葉が小さい変種「コウチスギ」の親杉として
の役割を果たした。

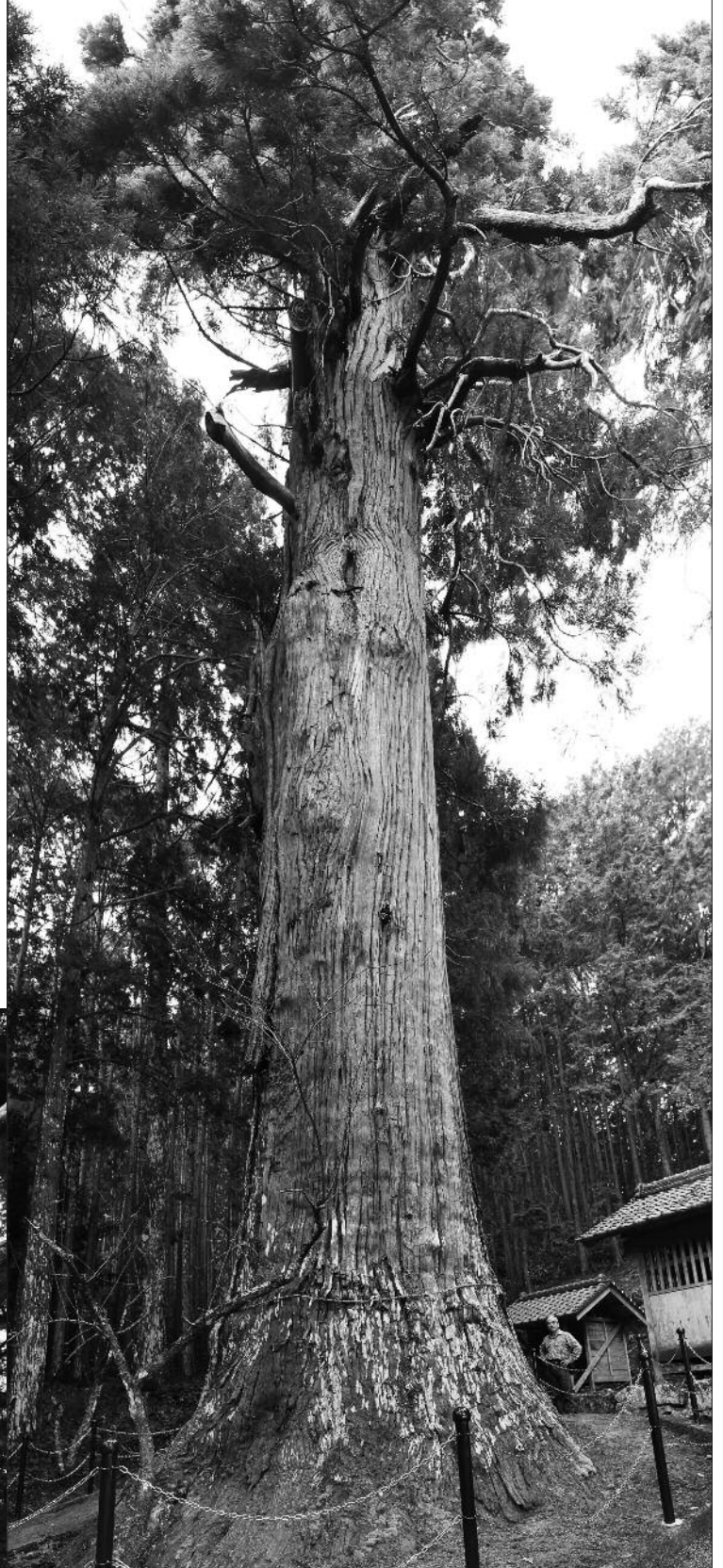


写真 S-036 ^{ぜんしょうじ} 禅昌寺の大杉

主幹北側に巨大なコブがあり、上部で7本に
分岐する。天然杉の自然分岐樹形である。



▲写真 S-037

諏訪神社の翁杉・媼杉

じじすぎ ばばすぎ
向かって右が翁杉で左が媼杉である。門杉として植えられたもので、各々の幹周は9m代だが、双方ほぼ同じ大きさで、Aランクとした。
(写真・赤司裕宣)



▲写真 S-038 栢野の大杉

かやの
昭和天皇がご覧になった事から「天覽の大杉」と呼ばれ、全国的にも例がない。9m代であるが、分岐幹が大きく広がり、10m代相応の巨大感がありAランクとした。背後に癒着の痕跡(下写真)がかすかに残り、参道を挟んで立つ一本杉と同時期に接近して植えられたスギが合体したと考えられる。しかし、見た目にはほとんど一本の杉に見える程になっている、希有な存在である。



◀写真 S-039

榛名神社の矢立杉

はるなじんじゃ やたてすぎ
神社周辺には見事な一本杉が林立し、全て優良品種で、親杉としての役割が大きかっただろう。矢立杉は、同じような太さのスギが二本合体したも。武将が戦勝祈願で、樹下に矢を立てる神事を行なったという。
見事な一本杉の代表格である事からAランクとした。



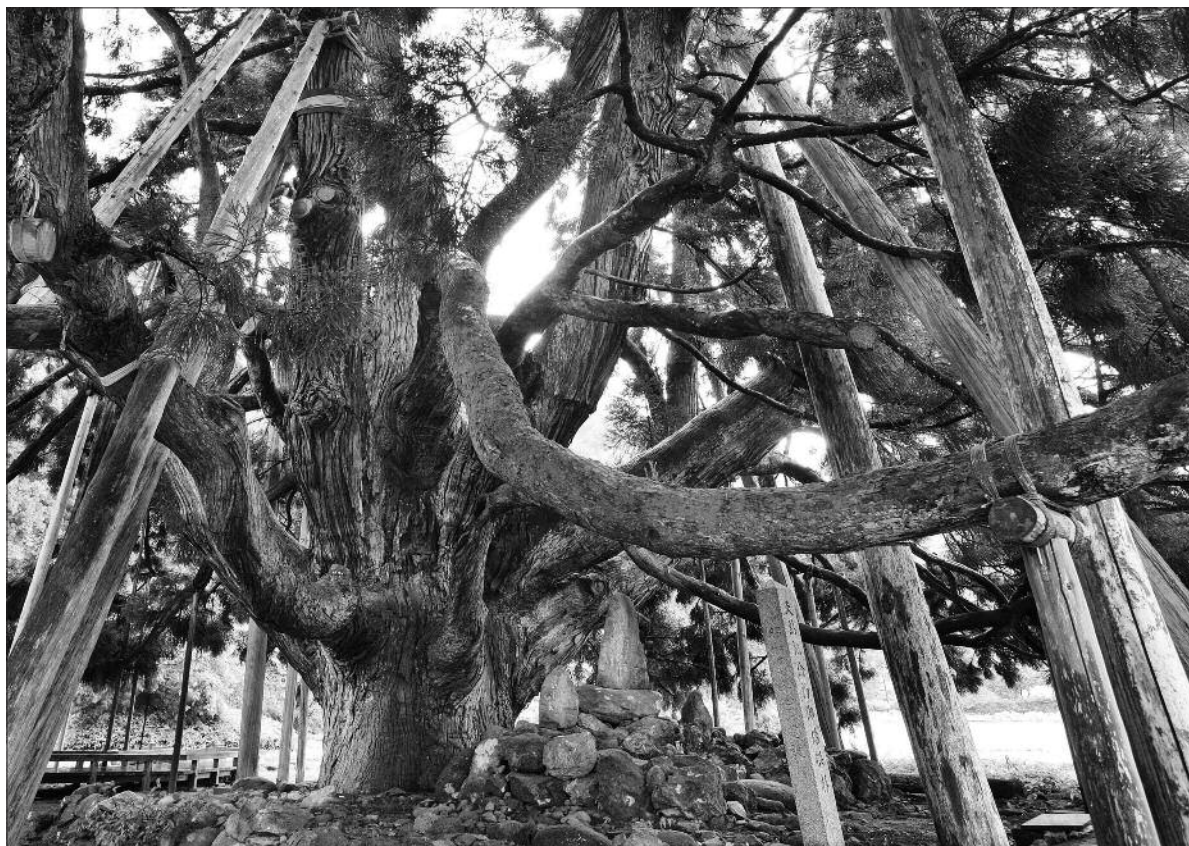


写真 S-040
おぶくすぎ
御仏供杉

御仏供とは仏前に供えるご飯の事で、地元では「おぼけ」と呼び「おぼけすぎ」とも称する。主幹より太い幹が多数出て、お椀を伏せたような樹形から命名。(左下写真)天然杉を、日当りのよい場所に植え、出た枝を枯らさずに丁寧に幹に成長させたもので、地元民の努力の結晶だ。



ごじゅうだに
写真 S-041 五十谷の大杉

「魔王杉」とも呼ばれる怪樹だ。豪雪地帯でこれ程までの幹を損傷なく育てた地元民の努力に感服である。見事な樹形で、迫力もあり、水平に出る太く長い幹は他に例がなく、Aランクとした。

日当りのよい場所に植えた天然杉の主幹を途中で台杉仕立てにして、枝を枯らさずに幹に仕立てていったもの。伸びた太い幹が天に昇るような姿は、地元民の長年にわたる保護の継承がなし得た技である。





だいひさん さんぼんすぎ
◀写真 S-042 大悲山の三本杉

峰定寺のご神木で、美しい一本杉の寄植え。この地方の親杉として植えられたものか。寄植えの完成度は抜群で、幹も太くAランクとした。



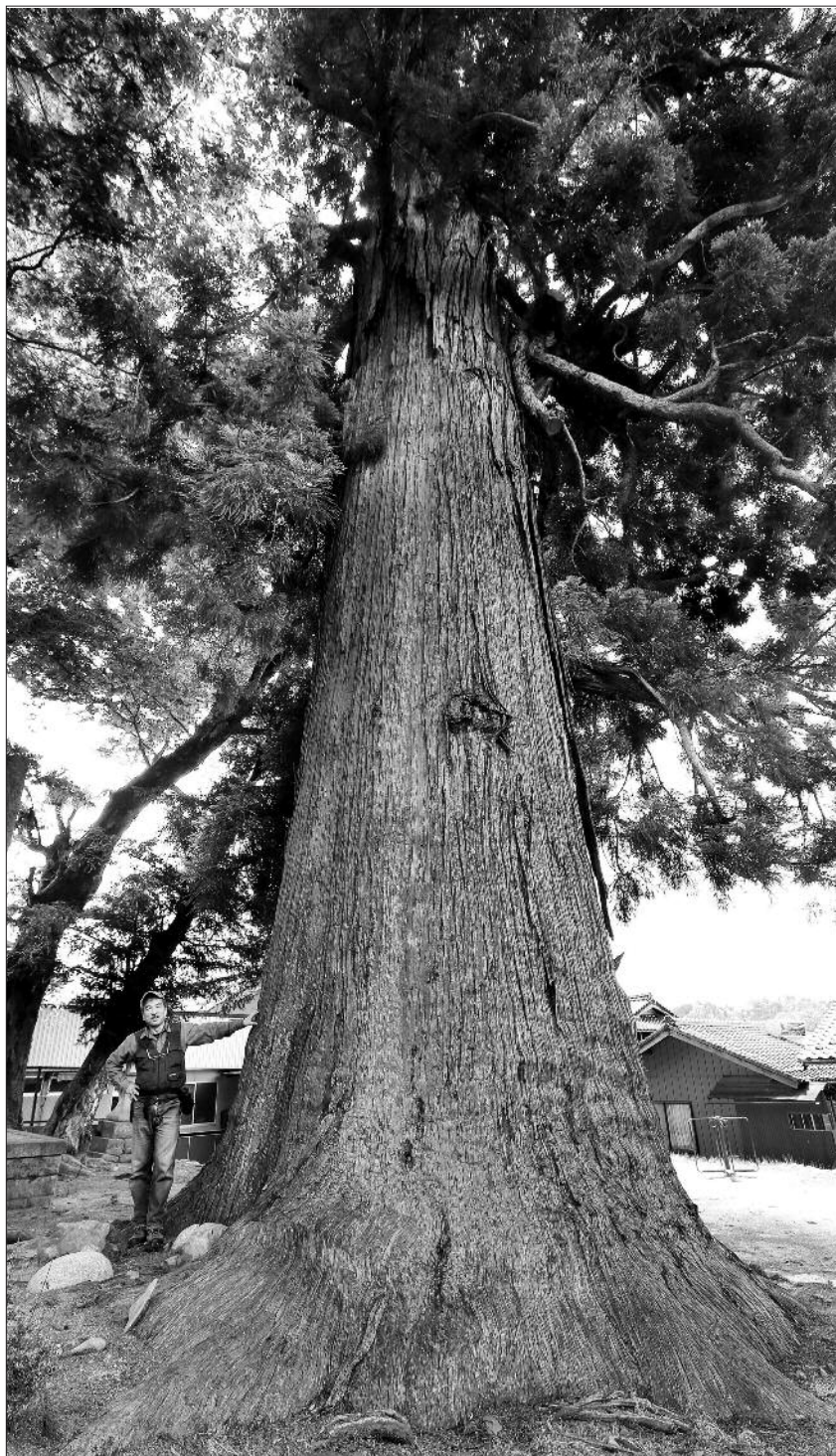
きみつじんじゃ ほこすぎ
▲写真 S-043 近津神社の銚杉

9m代とされていたが、10mを越えているのでAランクとした。見事な一本杉である。



くまのじんじゃ
◀写真 S-044 熊野神社の大スギ

昭和初期には樹高が45mもあったが、落雷で半壊した。村人が必死の消化で守ったという。大杉自体がご神体となっている。



▲立石の雄杉全景(写真・Web 画像)

写真 S-045 たていし おすぎ
立石の雄杉

9m 代であるが、近くの雌杉とともに、実に見事な一本杉である。



写真 S-046
ちまんじ
智満寺の大杉

智満寺の十本杉の最大株。見事な一本杉である。

■倒木した A 評価のスギ



ての
写真 S-047 手野のスギ

手野の国造神社の御神木で、見事な一本杉であったが、1991年の台風で途中で折れ、その後、樹勢が衰えて枯死。主幹部分が境内に保管展示されている。1984年撮影



手野のスギ・1984年撮影



智満寺の頼朝杉・2008年撮影



ちまんじ よりともすぎ
写真 S-048 智満寺の頼朝杉

2012年9月に倒木し、京都の仏師が弥勒菩薩像を制作するために切出しをしている。(写真・静岡空港シティーニュース)

ちまんじ かいざんすぎ
智満寺の開山杉

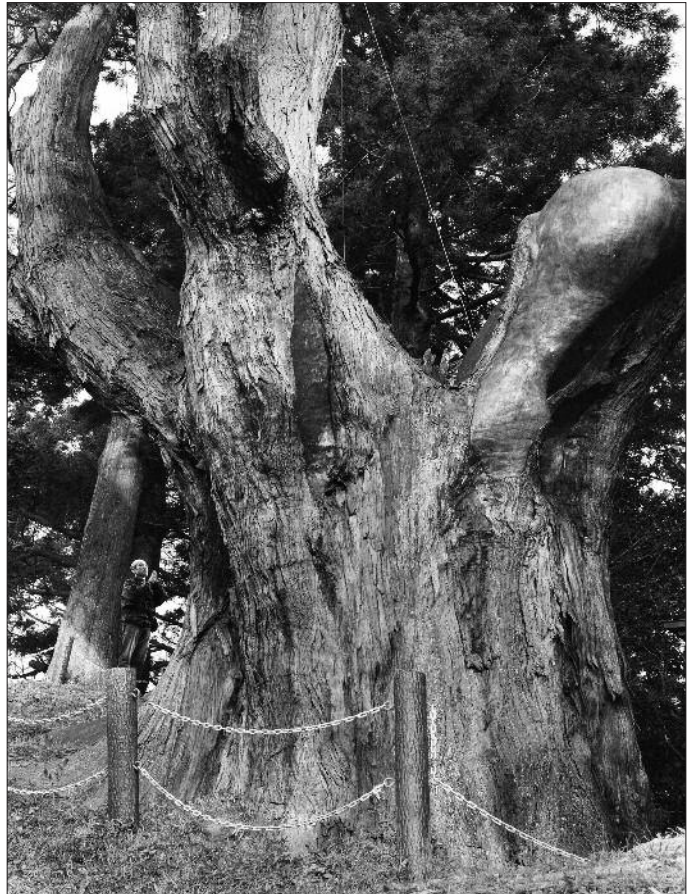
二本の幹からなり、左幹は1984年頃までに破損し、右幹がいつ頃破損したかは不明。2002年、古株が残されていた。(写真・Web画像)

■育てられたスギの巨木 B 評価の巨木



▲写真 S-049 ^{こんびらすぎ} 金比羅杉

落雷による火災で19時間燃え続けたという。今も焦げ跡が残り、無惨である。(写真・Web画像)



▲写真 S-050 ^{さんりくだいおうすぎ} 三陸大王杉

一時枯れかけて蘇生に成功した。幹周は巨大だが、やはり樹形に難があるのは残念である。

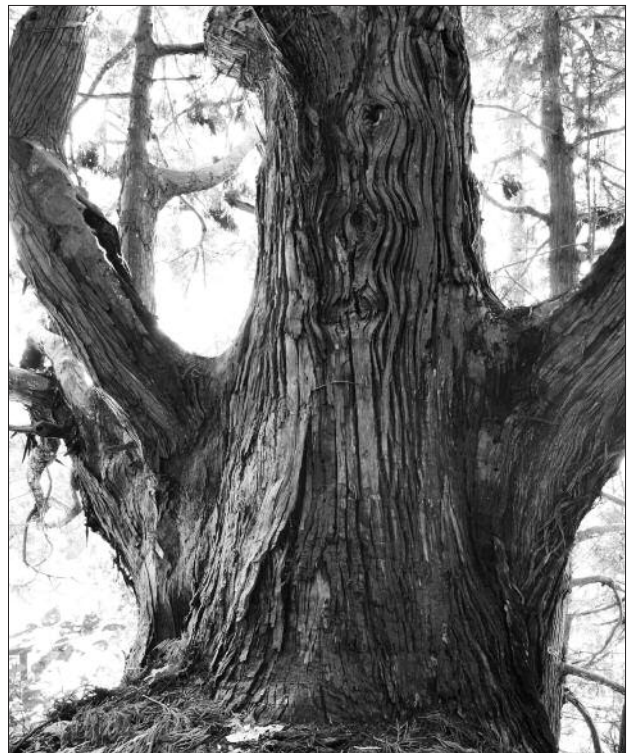
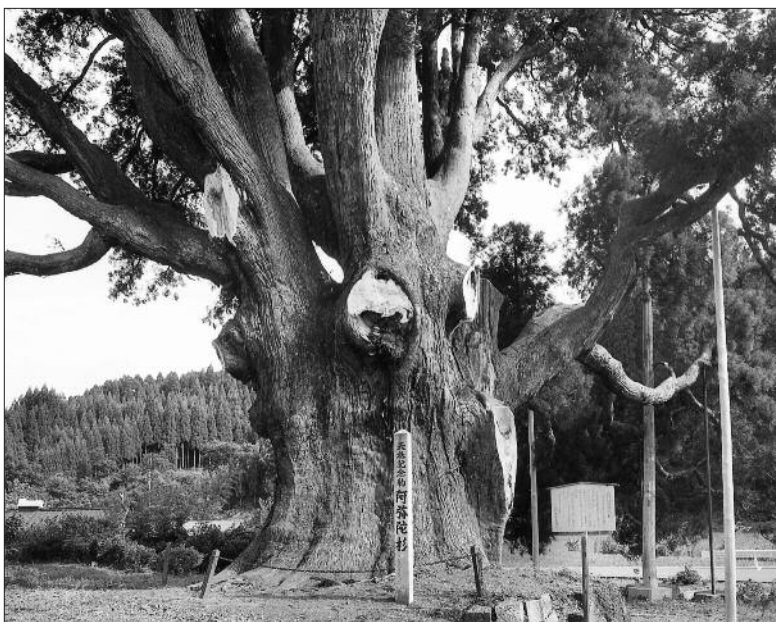


◀▼写真 S-051 ^{あみだすぎ} 阿弥陀杉

かつて伐採されそうになった時に、村人が資金を提供して買い戻したという。その後、村が守っていたが、1999年の台風18号で根元付近より倒壊し、残念ながら8割方失ってしまった(左写真・Web画像)。下写真・1984年撮影。当時の幹周M12.48mでA評価。

▼写真 S-052 ^{はくさんすぎ} 白山杉

白山神社の御神木。幹周は大きい、すぐに分岐するので巨大感は幹周程ではない。社殿のすぐ裏に立ち、まさにスギそのもののご神体である。





ごしょじんじゃ
▲写真 S-054 五所神社の大スギ

主幹と9本の分岐幹からなる奇怪な樹形。天然杉の自然分岐による樹形。



たきのさわ いっぼんすぎ
◀写真 S-053 滝の沢の一本杉

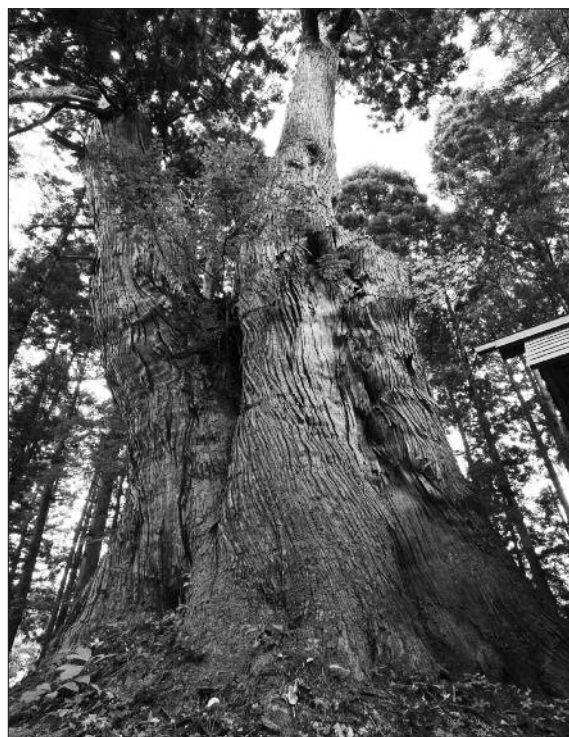
滝の沢の林道奥深くにあり、この地方の親杉として大切に守られてきた。山の神として根元に祀られていた大石が、いつの間にか巻込まれて見えなくなったという。



◀写真 S-055

いかだ
筏の大杉

二本の成長点が高い高さなので、二本の合体木と思われる。分岐部に巨大な山桜が着生していたが、近年伐採された。融合部がひび割れ、ワイヤーで固定されている。



やひこじんじゃ
▲写真 S-056 弥彦神社の大杉

五本同時に寄植えたという。二本が合体、三本が倒れ空洞(背後にある)ができた。合体木の記録が残る貴重な一本である。



さかうえ

写真 S-057 坂上の大杉

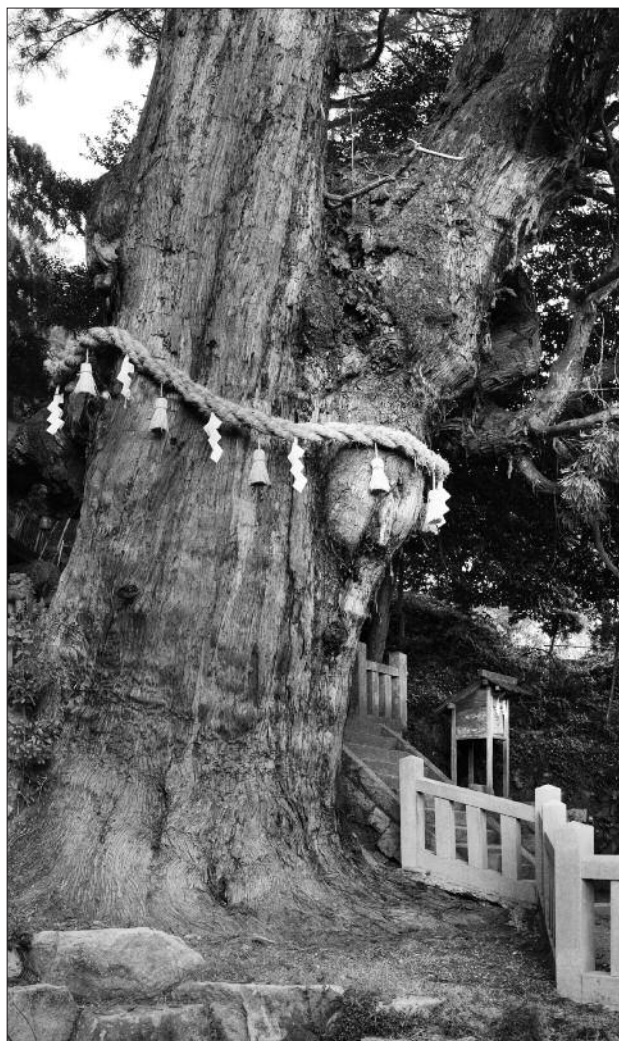
遠目に一本杉だが、途中から分岐幹が斜上する。しかし、よく観察すると、二本の杉を合体させた樹形である。長野県の「日下野の杉」と同じ形態で、繁栄成就を込めて育てられたものか。



しんぐうじんじゃ さんぼんすぎ

▲写真 S-059 新宮神社の三本杉

2株あり、一本が2本の融合木である本樹(右株)。左幹は幹周8m程の単幹樹。巨木が林立する壮観な景色である。
(写真・Web画像)



▲写真 S-058

おおくてしんめいじんじゃ
大湫神明社の大杉

中山道大湫宿の中程にあり、根元から湧出る神明元泉は、旅人達の飲み水になっていた。

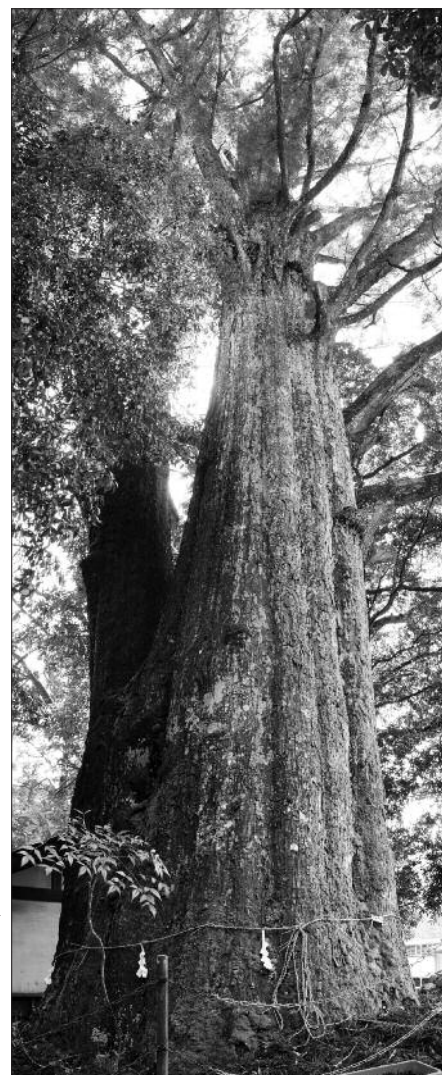
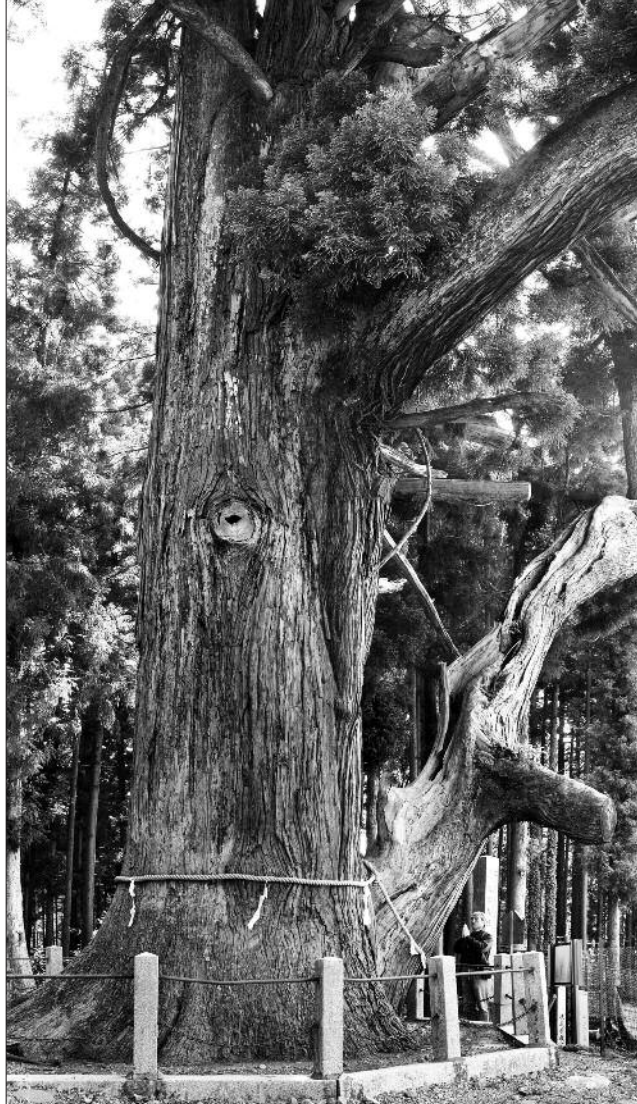


写真 S-060▶ たけはやじんじゃ 武速神社の しょうぐん 將軍スギ

武速神社の御神木で、道路沿いに立つ。主幹と側幹、2本の合体木である。



▲写真 S-061 かみ おつえ 神の御杖スギ

根元から分岐幹が立上がる樹形で、主幹は見事な一本杉。分岐幹として取扱った。

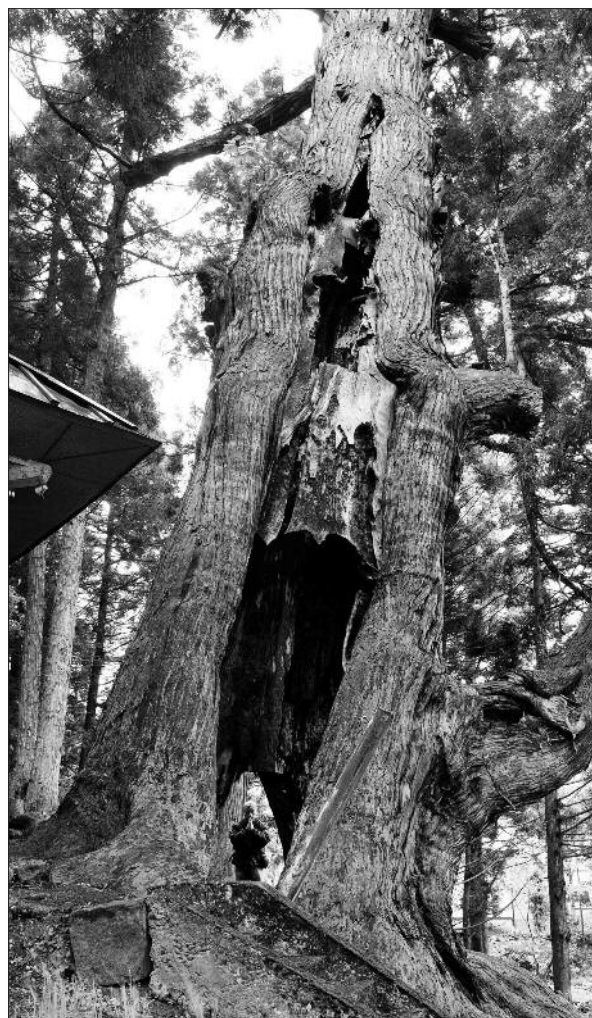
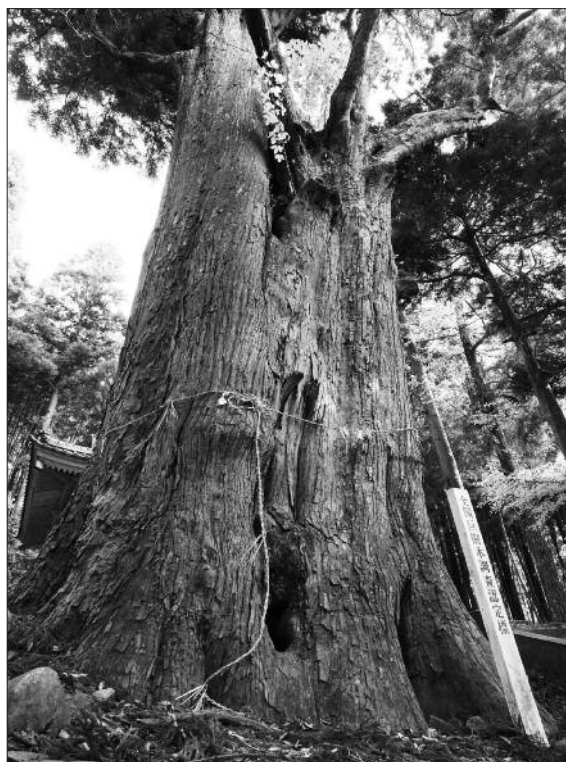


▲写真 S-062 やぶ 八頭の大スギ

現在一帯は公園になっているが波氏神社なみのりがあった。周辺には数千本の杉があったといい、その親杉として大切に守られてきた。

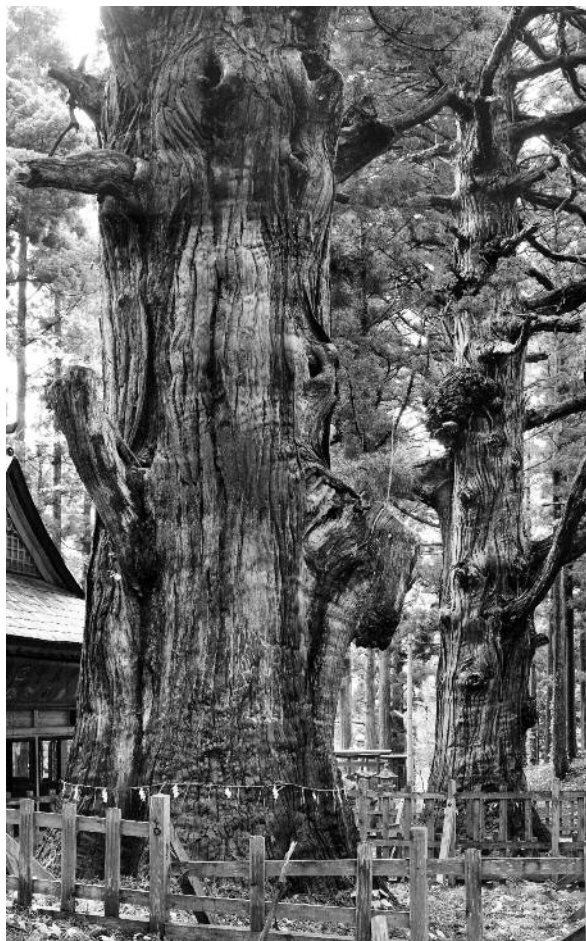
▼写真 S-063 おまたはくさんしゃ 小俣白山社の大杉

二本の合体木で、一本は一本杉で、もう一本は上部でよく分岐する。合体の痕跡がよく見える貴重な文化遺産である。



◀写真 S-064
いしはらくさんしゃ 石原白山社の大杉

落雷にあつて主幹内部が焼失した。根元はトンネル状になっている。生命力溢れる大杉である。



がんきさんじんじゃ
写真 S-065 巖鬼山神社の大杉(奥株)

右の大杉と神社横に並立している。実に壮観な光景である。こちらが少し太く、大きなコブの付根に気根も見られ、荒々しい雰囲気が漂う。



がんきさんじんじゃ
写真 S-066 巖鬼山神社の大杉(手前株)

見事な一本杉で、日本列島最北の大杉。比較的寒冷地を好むスギであるが、巨木となると北海道や東北に少ない。スギの巨木は山岳仏教や植林産業と深い関係があり、明治期に近代化が始まった地域には少ない。

わがせんになんぼうすぎ
写真 S-067 和賀仙人姥杉

旧街道は仙人峠の難所にあるご神木で、藤原秀忠が植えたと言えられる。実際は、天然杉の伏条幹融合型であるが、育てられたスギに分類した。



写真 S-068 オブ山の大杉

旧道沿いの山地にあり、天然杉の伏条幹が3本横並びに融合した樹形。側面から見るとかなり細く、意外に若いようだ。山人の山神様として見守られたため、育てられたスギに分類した。

